授業科目名	データサイエンス基礎演習 (日文Aクラス)	授業コード	41014001	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習：授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習：教科書 p.8～p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習：教科書 p.18～p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習：教科書 p.27～p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習：教科書 p.38～p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習：教科書 p.72～p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習：教科書 p.84～p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習：教科書 p.98～p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習：教科書 p.114～p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習：教科書 p.129～p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習：教科書 p.142～p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習	復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習	復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (日文Bクラス)	授業コード	41014002	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習：授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習：教科書 p.8～p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習：教科書 p.18～p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習：教科書 p.27～p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習：教科書 p.38～p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習：教科書 p.72～p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習：教科書 p.84～p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習：教科書 p.98～p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習：教科書 p.114～p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習：教科書 p.129～p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習：教科書 p.142～p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習	復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習	復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (英語)	授業コード	41014004	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	英語学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータ概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (7シ7Aクラス)	授業コード	41014005	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習：授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習：教科書 p.8～p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習：教科書 p.18～p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習：教科書 p.27～p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習：教科書 p.38～p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習：教科書 p.72～p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習：教科書 p.84～p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習：教科書 p.98～p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習：教科書 p.114～p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習：教科書 p.129～p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習：教科書 p.142～p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習	復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習	復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (7シ7Bクラス)	授業コード	41014006	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明	復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化	予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法	予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習	復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習	復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(心理Aクラス)	授業コード	41014010	科目ナンバリング(1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入)1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入)1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎)2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎)2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎)2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎)2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎)2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎)2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎)2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎)2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(心理Bクラス)	授業コード	41014011	科目ナンバリング(1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入)1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入)1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎)2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎)2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎)2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎)2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎)2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎)2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎)2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎)2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(福祉)	授業コード	41014009	科目ナンバリング(1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 社福
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータ概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(初等Aクラス)	授業コード	41014013	科目ナンバリング(1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入)1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入)1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎)2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎)2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎)2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎)2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎)2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎)2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎)2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎)2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (初等Bクラス)	授業コード	41014014	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習：授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習：教科書 p.8～p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習：教科書 p.18～p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習：教科書 p.27～p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習：教科書 p.38～p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習：教科書 p.72～p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習：教科書 p.84～p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習：教科書 p.98～p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習：教科書 p.114～p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習：教科書 p.129～p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習：教科書 p.142～p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習	復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習	復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (幼保)	授業コード	41014012	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 幼保
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (授業ガイダンス) 対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回 (導入) 1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回 (導入) 1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分 (約45分/週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり (下記教科書を購入してください)
-------	-----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(現社Aクラス)	授業コード	41014007	科目ナンバリング(1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入)1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入)1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎)2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎)2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎)2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎)2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎)2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎)2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎)2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎)2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(現社Bクラス)	授業コード	41014008	科目ナンバリング(1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータについて理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用するツール・課題の設定場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明	復習: 授業内容
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回(導入)1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回(導入)1-5. データ・AI活用の現場、1-6. データ・AI活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回(基礎)2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回(基礎)2-3. 平均の算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回(基礎)2-4. 標準偏差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回(基礎)2-5. 大量のデータを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113
第9回(基礎)2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128
第10回(基礎)2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回(基礎)2-8. 散布図の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回(基礎)2-9. 定性データの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習	復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習	復習: 教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング	
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について(定期試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)		
C.小テスト等	90	40%: 第1回~第12回の小テスト、提出物 10%: 第13回の総合演習 40%: 第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題(試験や小テスト、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて		学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-